

古民家移築再生に関心のある方、ご一報下さい!

阿賀野市内のある地域の活性プロジェクトの一つとして、古民家の移築再生を提案しています。今は空き家となっている家主さんに、その意義をお話ししたら無償で提供することの快い返事を頂きました。

10年前にも見せてもらったのですが、今一度調査をしたところ、劣化はほとんど進んでいません。なればと、あくまでも仮ですがイメージプランを作ってみました。それが、この紙面に掲載した写真です。

ところが、8月になって思わぬハプニングが生じ、この企画は今現在進行していません。折角の家主さんのご理解を無駄にたくなく、他の用途に活かせないものかと思案しています。住まいやお店などに転用すれば、素晴らしいものになります。



この写真は現物ではありません。完成時における周囲とのバランス、外観・室内空間・色調・家具配置等をイメージするためのものです。あらゆる角度・高低から、人の目で見え通りの現状を表現します。

下の写真は今現在の現状です。



私たちの顔と心と技の見える家づくり

永く愛され100年住む家



株式会社 研創

〒959-2205 新潟県阿賀野市寺社246
TEL0250-68-3212・FAX0250-68-5271
http://www.kenso.info/
E-mail: info@kenso.info



研創新聞

先代から受け継いだ「お宝」を粗大ゴミにしてはなりません!

改築の相談にお客様をお訪ねすると、その家には人格にも似た「建築格」で言えるものが多々あります。品格、風格といった建築格は、その建築に携わった人たちの思いと時間により育てられ、備わっていきます。

「建築は心の言葉である」というように、そのような建築格をもった家は、人の心に何かを語りかけます。100年を超えた瓦屋根や大空間を支えているケヤキ等の大きな断面の柱や梁には、圧倒的な存在感を感じます。

それを削り、刻み、組む技術、また建具格子等の細工に当時の職人の思いや意気込みが伝わってきます。このように永年住み続けられた住まいの中から、次の時代に残し伝えたい、モノ、コト、ソトを選び、それに現代の生活に必要なモノやコトを加え

る。これが、建築に携わる私たちの使命と責務と想っています。方法としては、そのままの状態で改築する方法。もう一つは、日本の木造建築は部材を外せる(はらせる)事が最大の長特ですので、一旦解体し再構築する方法です。いずれにしても、プロの設計者と職人の技を有する事は言いつまでもありません。



難易度が高いから「お宝」価値・魅力がある

古い家の再生という、ややもすると、住む人も建築担当者も意匠・デザイン等、表面的な見た目のモノだけに拘ろうとしますが、肝心なのは、家は住む人の心身の健康と生命の安全を守る、という構築物であるということです。

当然のことながら、現行の耐震基準を満たすものでなければなりません。ところが、厄介なことに、今風の金物や筋交い、合板

古民家改修事業で新潟県より100万円の補助

新潟県では古民家再生に対する補助事業を行っています。目的は、伝統的木造建築技術の継承と、現場における技術研修を通じて建築技術者の育成です。対象となる家は、築後概ね50年を経過したもので、次に掲げる要件を満たすものです。

①軸組構法で造られた建物。
②接合金物に頼らない伝統的な継ぎ手・仕口を用いた建物。
③筋交い等の斜材を多用せず
④主要な壁は板張り又は土塗り等の湿式工法を用いた建物。
⑤屋根は和瓦葺き、板葺き若しくは茅等の草葺きである建物。
当然のことながら、再生後は現行の耐震基準を満たすものでなければなりません。ご相談を承ります。



に頼る構造体とは根本から違います。となると、伝統木構造の力学的な根拠に基づいた構造計算で証明するコトが必要となります。尚且つ、部材の入れ替え、部分補強となると、「ノギリ・ノミ・カンナを自在に操り、経験と美感性を備えた本物の大工職人の技が絶対条件となります。

地域の伝統文化・技能を後世にバトンタッチ

日本の木造建築物と鉄やコンクリート造との最大の違いは、腐れと虫害の管理さえ適正であれば、半永久的に機能する特長があります。古い家の再活用をお勧めしていますが、何もかもという訳ではありません。費用の面も含め、価値・メリットの客観的な判断が重要です。それには、調査・診断・改修設計・施工法・維持管理等の知識・技術の専門力が必要になります。その様な人材を育成しながら、地域で活躍すれば、歴史ある街並みも、各地に多く存在する空き家や情緒ある古家もむやみに壊されずに地域の活性化にもなります。

